

4. 火災の実態

1. 火災の概要

平成 23 年中の火災は、出火件数 2,531 件、損害額 4,368,516 千円、死者数 74 人、建物焼損床面積 48,274 m²、建物焼損表面積 3,318 m²、林野焼損面積 2,310a、焼損棟数 1,525 棟、り災世帯数 957 世帯、り災人員 2,290 人となった。

(火災の状況)

区分	平成 23 年 Ⓐ	平成 22 年 Ⓑ	対前年増減数 Ⓒ = Ⓢ - Ⓣ	増減率	
				Ⓒ	× 100 (%) Ⓑ
出火件数	2,531	2,288	243	10.6	
建物火災	1,052	1,176	△124	△10.5	
林野火災	131	64	67	104.7	
車両火災	225	240	△15	△6.3	
船舶火災	3	2	1	50.0	
航空機火災	0	0	0	—	
その他火災	1,120	806	314	39.0	
焼損棟数	1,525	1,679	△154	△9.2	
り災世帯数	957	1,074	△117	△10.9	
り災人員	2,290	2,664	△374	△14.0	
焼損面積					
建物床面積 (m ²)	48,274	54,933	△6,659	△12.1	
建物表面積 (m ²)	3,318	11,449	△8,131	△71.0	
林野 (a)	2,310	854	1,456	170.5	
損害額 (千円)	4,368,516	3,833,391	535,125	14.0	
死者 (人)	74	97	△23	△23.7	
負傷者 (人)	339	289	50	17.3	

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成 23 年中の火災の発生を一日当たりでみると、出火件数 約 6.9 件、損害額 約 11,969 千円、死者数 約 0.2 人、建物焼損床面積 約 132.3 m²、建物焼損表面積 約 9.1 m²、林野焼損面積 約 6.3 a、焼損棟数 約 4.2 棟、り災世帯数 約 2.6 世帯、り災人員 約 6.3 人である。

2. 出火件数

(1) 総出火件数は、2,531 件で前年と比べて 243 件増加している。これを火災種別でみると次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
平成 23 年	2,531 件 (100.0%)	1,052 件 (41.6%)	131 件 (5.2%)	225 件 (8.9%)	3 件 (0.1%)	0 件 (0.0%)	1,120 件 (44.3%)
平成 22 年	2,288 件 (100.0%)	1,176 件 (51.4%)	64 件 (2.8%)	240 件 (10.5%)	2 件 (0.1%)	0 件 (0.0%)	806 件 (35.2%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(2) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、3月が392件と最も多く、1月366件、2月289件と続いている。

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均 約4.1件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は4,368,516千円で前年比535,125千円（14.0%）増加した。また、県民1人当たりでみると 約705円（前年 約620円）、1日当たりでは 約11,969千円（前年 約10,502千円）、1件当たりでは 約1,726千円（前年 約1,675千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
2,531件	582件 (23.0%)	223件 (8.8%)	151件 (6.0%)	212件 (8.4%)	99件 (3.9%)	1,264件 (49.9%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は74人、負傷者は339人で、前年に比べて死者は23人減少（前年比23.7%減）し、負傷者は50人増加（前年比17.3%増）した。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災による死者が57人、負傷者269人でそれぞれ全体の77.0%、79.4%と大部分を占めている。また、林野火災による死者が1人、負傷者は4人（1.4%、1.2%）、車両火災による死者が9人、負傷者は15人（12.2%、4.4%）、船舶火災による死者が0人、負傷者は1人（0%、0.3%）、航空機火災による死者が0人、負傷者は0人（0%、0%）、その他火災による死者が7人、負傷者は50人（9.5%、14.7%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると1月が16人と最も多く、次いで3月が10人、2月と12月が9人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の5割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	0	2	5	5	8	22	32	0

(5) 死因

死者を死因別にみると火傷18人（31.0%）、自殺16人（21.6%）、一酸化炭素中毒・窒息22人（37.9%）、打撲・骨折0人（0.0%）その他・不明18人（31.0%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

() 内は対前年比

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,052 (△10.5%)	3,736,827 (3.7%)	床面積 48,274 m ² (△12.1%) 表面積 3,318 m ² (△71.0%)	1,525 (△9.2%)	957 (△10.9%)	2,290 (△14.0%)
林 野	131 (104.7%)	4,244 (△10.0%)	2,310 a (170.5%)	—	—	—
車両	225 (△6.3%)	103,925 (9.6%)	—	—	—	—
船 舶	3 (50.0%)	13,775 (323.8%)	—	—	—	—
航空機	0 (-%)	0 (△100.0%)	—	—	—	—
その他	1,120 (39.0%)	479,132 (289.9%)	—	—	—	—
(爆発)	9 (200.0%)	30,613 (543.4%)	—	—	—	—

※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。

H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。